

いにしへの
技
と
デザイン

発掘された京都の歴史2018



向日市文化資料館

平成30年 8/4(土) ~
8/26(日)

ふるさとミュージアム山城

(京都府立山城郷土資料館)

平成30年 9/5(水) ~
9/23(日)

ふるさとミュージアム丹後

(京都府立丹後郷土資料館)

平成30年 9/29(土) ~
10/14(日)

主催 京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、府民の皆さまをはじめ、多くの方々に埋蔵文化財への興味や関心を持っていただき、遺跡や遺物に親しんでいただくことを目的に、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの共催で開催しています。

展覧会では、昨年度に京都府内で実施された発掘調査の成果を、遺物や写真パネルなどによって展示しています。

また、京都府では、文化財の指定や登録を受けていない歴史的に価値がある文化財の早期保護を目的に、昨年度、全国に先駆けて京都府暫定登録文化財制度を創設しましたので、今年の展覧会では「いにしへの技とデザイン」をテーマに、新たに登録された考古資料の展示コーナーを設け、それぞれの資料が製作された当時の技術やデザインを身近に感じていただけるよう工夫しております。

展示に当たっては、よりわかりやすく、親しみやすくなるように心がけましたので、古（いにしえ）の世界をお楽しみください。

むすびに、今回の展覧会に協賛をいただいた向日市文化資料館をはじめ、様々な御協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝いたします。

平成 30 年 8 月

京都府教育委員会

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡 例

1. 本図録は、「発掘された京都の歴史 2018 いにしへの技とデザイン」（向日市文化資料館：平成 30 年 8 月 4 日（土）～8 月 26 日（日）、京都府立山城郷土資料館：同 9 月 5 日（水）～9 月 23 日（日）、京都府立丹後郷土資料館：同 9 月 29 日（土）～10 月 14 日（日）開催）の展示図録です。
2. 展示資料は京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター及び府内各機関が主に平成 29 年度に発掘調査や整理事業を行った遺跡・遺物を対象としました。
3. 本図録に掲載した資料は展示品のすべてではありません。また、展示の都合により員数等が異なる場合があります。
4. 本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関からご指導・ご協力いただきました。
（順不同・敬称略）京丹後市教育委員会、宮津市教育委員会、福知山市教育委員会、綾部市教育委員会、南丹市教育委員会、長岡京市教育委員会、大山崎町教育委員会、宇治市、宇治市教育委員会、城陽市教育委員会、久御山町教育委員会、木津川市教育委員会、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都市考古資料館、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター

（表紙写真 右：寺町旧域出土茶道具、左：樋ノ口遺跡出土三彩小壺）

発掘された京都の歴史 2018

茶 陶

てらまちきゅういき
【寺町旧域】

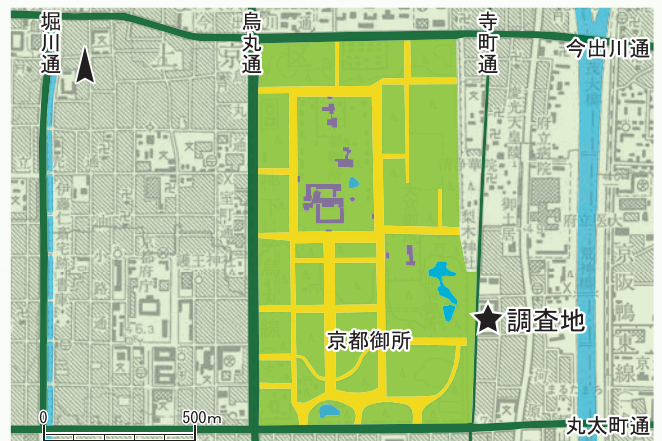
京都市上京区寺町通荒神口下ル松陰町

安土桃山時代～江戸時代

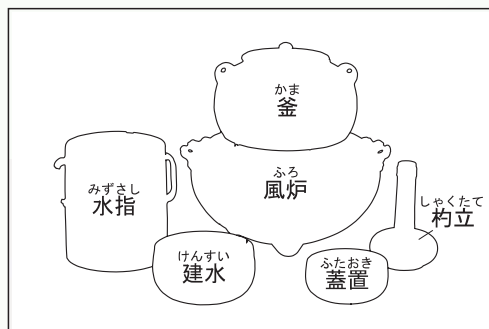
当調査研究センター調査

寺町は、天正 18 (1590) 年に豊臣秀吉によって整備された寺院町です。調査では、寺院に伴う建物や井戸、墓地などが見つかりました。寺院の東側で見つかった墓地は、337 基もの墓穴が整然と並んでいました。

なお、建物の配置などから調査地が3つの寺院の敷地にあたることがわかりました。



京都御所と調査地
(国土地理院発行『京都東北部』1/25,000 に加筆)



禁裏注文品と推定される茶道具

京焼 茶道具（禁裏注文品）

寺町旧域で見つかった京焼の茶道具です。風炉・
釜・水指・建水・杓立・蓋置などがまとまって出土し
ました。それぞれの器には、十六弁の菊文と若松文が
染付と錆絵で描かれています。文様から禁裏（天皇の
居所、あるいは天皇を指します）からの注文品である
と考えられます。

若松文に根が描かれていることや、菊文の複弁がひ
とつひとつ丁寧描かれていることから、18世紀前半
頃の製品と考えられます。

禁裏注文品の器はこれまでも出土例がありますが、
今回のように茶道具一式がまとまって出土するのは極
めて珍しい事例です。

茶道具のいろいろ

風炉（ふろ）	茶の湯の席で湯をわかすのに使う炉
水指（みずさし）	茶碗をすすぐ水や釜へ補充する水 を貯めておく器
建水（けんすい）	茶碗をすすいだ湯や水を捨てる器
杓立（しゃくたて）	湯や水を汲む柄杓を立てて置く道具
蓋置（ふたおき）	茶釜の蓋を置く道具



十六弁の菊文



若松文

（根が描かれているのは古い時期の特徴です）

【平安京跡左京一条三坊二町】

京都市上京区下長者町通新町西入藪ノ内町

安土桃山時代～江戸時代

当調査研究センター調査

江戸時代初めごろのごみ穴が
数多く見つかり、その中から茶
の湯に用いる陶器「茶陶」が出
土しています。

写真は、織部焼の向付です。
茶会ではお茶をいただく前に
懐石と呼ばれる料理が出されま
す。向付は、その料理の容器の
ことで、お膳の向こう側に置か
れることからこの名で呼ばれま
す。

織部焼の向付は、形状と文様
の大胆な意匠と濃緑色の釉薬が
特徴です。



織部焼向付

縄文土器と祈り

みぬしじんじゃひがしいせき
【水主神社東遺跡】

城陽市寺田大畔

縄文時代後期

当調査研究センター調査

水主神社東遺跡は、木津川右岸沿いの平野部に立地しています。調査区を深く掘り下げた地点から、縄文時代後期の土器や石器などがまとまって出土しました。

周辺の遺跡でも縄文土器が出土していることから、木津川の右岸に縄文時代の遺跡が大きく^{ひろ}拡がることがわかってきました。山城盆地南部の縄文時代の人々の生活を考えるうえで、貴重な資料を得ることができました。



縄文土器などの出土状況（南から）

しもみずしいせき
【下水主遺跡】

城陽市寺田今橋

縄文時代晩期

当調査研究センター調査

下水主遺跡も、水主神社東遺跡の西に立地しています。木津川右岸沿いの平野部に立地しています。木津川の洪水の跡から、大量の縄文土器が出土しました。縄文土器は、縁の部分に粘土の帯を貼り付ける「凸帯文土器」と呼ばれるもので、縄文時代の終わりごろのものです。

土器の他にも、土偶の左腕の破片が見つかりました。土偶は、手の先端が三つ又に分かれており、東日本の土偶によく見られる特徴です。京都府では初めての発見となります。

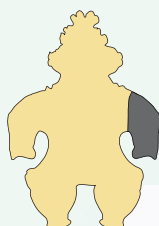
土器の中にも東海地方の特徴を持つ土器が含まれており、東日本と交流があった人々が付近に住んでいたと考えられます。



洪水の痕跡から出土した縄文土器



縄文時代の洪水の痕跡（西から）



土偶の左腕です



（前から）



（左から）

土偶の腕（残存長 4.4cm）

住まいと土器

【美濃山遺跡】

八幡市美濃山出島

弥生時代～奈良時代

当調査研究センター調査

美濃山遺跡は、京都盆地南西部の大阪府との境界にある丘陵上に立地します。おもに弥生時代から奈良時代にかけての集落遺跡です。

弥生時代の遺構として、後期の^{たてあなたてもの}竪穴建物5基を確認しました。平面形は円形や方形、多角形などがあり、大きさは5mから11mを測ります。

竪穴建物の多くに屋外へのびる長い^{はいすいこう}排水溝が見つかりました。北河内地域など淀川左岸の地域との交流が推定されます。



調査地の全景（東から）

【小樋尻遺跡】

城陽市富野小樋尻

弥生時代終末期～古墳時代前期

城陽市教育委員会調査

小樋尻遺跡は城陽市のほぼ中央に位置し、水主神社東遺跡の東側に広がっています。縄文時代晩期や飛鳥時代の遺構とともに、古墳時代前期～後期の^{たてあなたてもの}竪穴建物などが見つかりました。

このうち、古墳時代前期初頭には、竪穴建物^{ほったてばしらたてもの}13基、掘立柱建物1棟、溝1条などが見つかり、大規模なムラがあったことがわかりました。古墳時代のはじめは各地の土器が大きく移動し、交流が活発になる時期であり、木津川によって栄えたムラだったのかもしれません。



古墳時代前期の竪穴建物（北から）
（城陽市教育委員会提供）

【女布遺跡】

京丹後市久美浜町女布

弥生時代～平安時代

当調査研究センター調査

女布遺跡は、京都府の北西端、久美浜湾に注ぐ^{さのだにがわ}佐濃谷川右岸に位置します。弥生時代中期から平安時代にかけての集落遺跡です。

古墳時代初頭の^{たてあなたてもの}竪穴建物や平安時代の^{どこう}土坑などが見つかりました。竪穴建物の床面から多くの土器が出土しました。

土器には、周辺の日本海沿岸地域の特徴が見られるものがあり、遠く離れた地域とも交流していたと考えられます。



床面の一部が見つかった竪穴建物（東から）

古墳と埴輪

【史跡銚子山古墳】

京丹後市網野町網野
古墳時代前期
京丹後市教育委員会調査

史跡銚子山古墳は、福田川河口部を見下ろす台地上に築かれた日本海側で最大の前方後円墳です。史跡整備に伴う発掘調査で、墳丘の長さが約 200 m であることがわかり、古墳の周溝底を一部掘り残した土手状の高まりが新たに確認されました。

また、古墳上に置かれた埴輪は、一般的な円筒埴輪に壺をのせたような独特な形をしています(丹後型円筒埴輪)。与謝野町蛭子山古墳や京丹後市神明山古墳をはじめとする丹後地域の有力者を葬った古墳に共通する特色のある埴輪です。

調査では、幾何学的な文様が線刻された丹後型円筒埴輪も見つかりました。

墳丘上で確認された葦石（北から）
(京丹後市教育委員会提供)



【丹波丸山古墳群】

京丹後市峰山町丹波 古墳時代前期

当調査研究センター調査

丹波丸山古墳群は、丘陵の尾根上に築かれた 34 基から構成される古墳群です。

古墳群のなかで、最も規模の大きな 32 号墳からは、5 基の埋葬施設が見つかりました。中心に位置する被葬者の棺は、丹後地域の特色である舟底状木棺です。棺の中からは、1 本の鉄製の鉋が出土しました。



32 号墳の埋葬施設（西から）



調査地の全景（東から）

の鉋が出土しました。

舟形の棺は、死者を舟で死後の世界に送る信仰に由来するものでしょうか。海上交易で栄えた丹後地域の首長にふさわしい棺と言えます。

【カシヅケ古墳群】

南丹市園部町小山東町

古墳時代中期

南丹市教育委員会調査

カシヅケ古墳群は、京都府の中央部に位置する園部盆地の丘陵上に築かれた古墳群です。中期古墳は2基の方墳から構成されます。1号墳は、一辺15mを測り、2号墳は一辺10mを測ります。

規模の大きな1号墳の墳丘の裾まわりには、埴輪列がめぐることがわかりました。円筒埴輪のほか、家形埴輪や蓋形埴輪などの形象埴輪が出土しました。また、埴輪とともに須恵器の器台も見つかっています。



葺石と埴輪列（南から）（南丹市教育委員会提供）

【史跡久津川車塚古墳】

城陽市平川車塚

古墳時代中期

城陽市教育委員会調査

久津川車塚古墳は、城陽市東部の木津川に流れ込む小河川が形成した扇状地上に立地します。山城地域最大の前方後円墳で、墳丘の長さは約180m、周りを取りまく周濠などを含めた全長は約272mとなります。

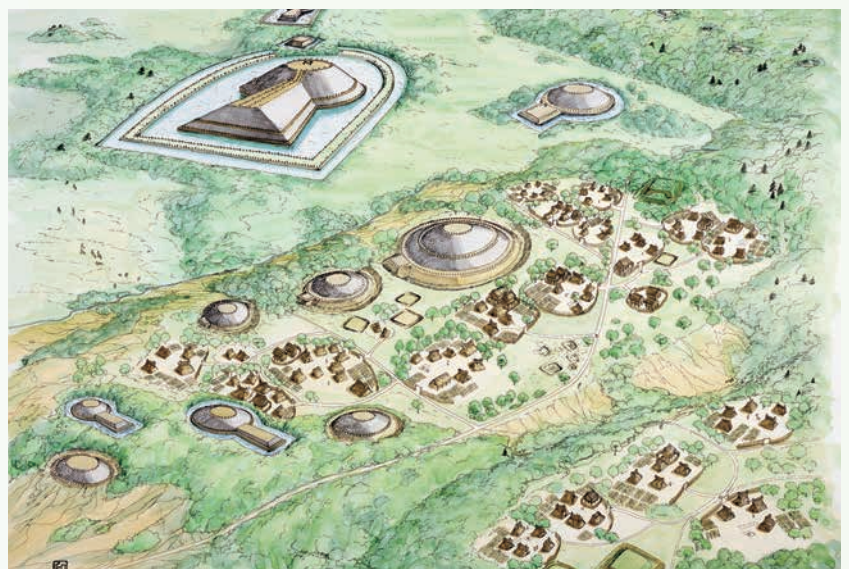
後円部の西側で、墳丘裾と、周濠を渡るための渡り土手とみられる遺構の一部を確認しました。土手の斜面は小ぶりの石材を用いた葺石が良く残っており、その積み方や作業単位などが観察できます。

出土遺物には円筒埴輪をはじめ、さまざまな形象埴輪（水鳥・家・蓋・盾・靱・甲冑）があります。さまざまな形の埴輪が出土しており、墳丘や渡り土手で行われていたと思われる儀式を考える上で重要な資料となります。

現在、史跡整備事業が進められています。



中央下の人物の左が渡り土手、右が後円部（西から）
（城陽市教育委員会提供）



久津川古墳群一帯の想像復元図（早川和子作画）
（左手奥の前方後円墳が久津川車塚古墳）

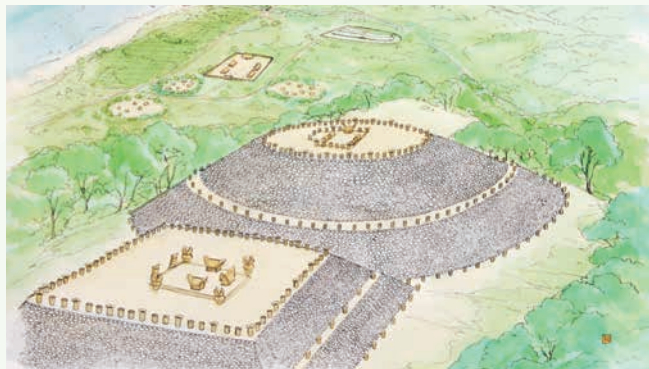
【二子山古墳】

宇治市宇治山本 古墳時代中期

宇治市調査

宇治川右岸の丘陵上に立地する2基の古墳のことをまとめて二子山古墳と呼んでいます。

2基の古墳は、これまで先に造られた北墳が円墳、南墳が方墳とされてきましたが、調査の結果、どちらも円墳であることがわかりました。北墳は、直径40m、南墳は長軸34m、短軸30



宇治二子山古墳想像復元図（宇治市提供）
（南墳は方墳であると推定されてきましたが
今回の発掘調査で円墳であることがわかりました）

mを測ります。過去の調査では、両方の古墳から甲冑や剣など多量の鉄製武器や農工具が出土しています。北墳は墳丘が葺石で覆われ、墳丘裾部と墳頂部に円筒埴輪が置かれていますが、南墳には葺石は確認されませんでした。



南墳調査地の全景（南西から）（宇治市提供）

横穴式石室と須恵器

【北大塚古墳群】

綴喜郡井手町井手大塚 古墳時代後期

当調査研究センター調査

北大塚古墳群は、木津川右岸の井手町に位置する丘陵上にあります。調査の結果、横穴式石室を埋葬施設とする古墳4基が見つかりました。いずれも大きく損なわれていましたが、16m級の円墳2基と規模の小さな円墳2基が築造されていました。

これまで単独の古墳とされてきましたが、今回の調査によって後期から終末期の群集墳であることがわかりました。



北大塚1号墳出土土器



北大塚古墳群と木津川（東から）

鏡と玉

しばやまこふんぐん
【芝山古墳群】

城陽市富野中ノ芝ほか

古墳時代前期～後期

当調査研究センター調査

芝山古墳群は、城陽市東部の丘陵上に立地し、芝山遺跡内に所在します。

古墳群はこれまでに 32 基の古墳が見つかり、小型の方墳を主体とし、丘陵の尾根上に分布する古墳時代前期～中期に築造された一群と、小型の円墳を主体とし、丘陵中腹の平坦地に広がる古墳時代後期に築造された一群から構成されます。

前者の古墳群の調査では 2 面の鏡が出土しました。どちらも日本製の鏡です。鏡 1 は直径 9.5cm です。

鏡 2 は、芝山 15 号墳の埋葬施設から出土したもので、直径 11.5cm です。同じ埋葬施設から、勾玉 1 点・管玉 13 点が出土しました。



芝山 15 号墳 鏡 2・玉類出土状況

芝山 16 号墳は、丘陵の支尾根上に単独で築かれた古墳です。残った墳丘から、本来は方墳の可能性が高く、復元すると一辺が約 25 m 前後の規模をもつと推定されます。墳頂部に全長 4.2 m の埋葬施設があり、鉄製の斧やおのたてぐしが出土しています。時期は、古墳時代前期後半と考えられます。



鏡 1（鳥頭四獣形鏡）



芝山 15 号墳出土の鏡 2（四獣形鏡）



芝山 16 号墳 埋葬施設全景（北から）

寺院・官衙と瓦

【佐伯遺跡】

亀岡市蕨田野町佐伯

古墳時代後期～平安時代

当調査研究センター調査

佐伯遺跡は、亀岡盆地西端部の平野部に広がる遺跡です。綾部市に所在する綾中廃寺と同じ文様の軒丸瓦を含む大量の瓦や、仏教信仰に用いられる瓦塔の破片、多数の墨書土器などが出土しました。

大量に出土した瓦類や瓦塔の存在から新たな古代寺院と判断されます。また、瓦類の下層で見つかった南北方向の掘立柱塀は、寺院の区画施設の可能性があります。



調査地の全景（南西から）



綾部市綾中廃寺と同範の軒丸瓦

佐伯遺跡と綾中廃寺

出土した軒瓦の中に、綾部市の綾中廃寺と同じ文様の軒丸瓦が出土しています。

綾中廃寺は、郡衙といわれる役所に付随する寺院と推測され、郡司となった地方豪族が建立したと考えられています。

2か所の遺跡は直線距離で約40km離れています。文様の摩耗や製作技術の違いから、綾中廃寺から佐伯遺跡へ範（木製の型）だけが移動したと考えられます。

同じ範を使用していることから両者の関係が注目されるところです。

【三日市遺跡・車塚遺跡】

亀岡市馬路町上三日市

奈良時代～平安時代

当調査研究センター調査

丹波国分寺跡や丹波国府など、奈良時代から平安時代の寺院や役所が集中する亀岡盆地の北東部に立地します。周辺は、瓦作りに適した良質の粘土が採れ、中世～近世の瓦作りのためとみられる粘土採掘穴が見つっています。

調査では、奈良～平安時代の掘立柱建物の一部や瓦を捨てた穴が見つかりました。丹波国分寺創建時の瓦窯である三日市遺跡の瓦窯跡に近く、瓦作りと関係する遺構の可能性があります。



調査地の全景（北東から）

【史跡恭仁宮跡(山城国分寺跡)】

木津川市加茂町例幣ほか

奈良時代

京都府教育委員会調査

恭仁宮は、聖武天皇が天平 12 (740) 年に平城京から遷都された都です。都の造営は短期間で中止になりましたが、国分寺・国分尼寺建立の詔や壘田永年私財法など、当時の重要な施策が恭仁宮から発せられました。

今回の調査では、約 3 m (10 尺) 間隔で南北に並ぶ柱穴列を確認しました(右図③の地点)。この柱穴列は、朝堂院の東辺を区画する掘立柱塼と考えられ、その北端の柱穴を確認しました。このことから朝堂院の南北の規模が約 103 m (350 尺) になる可能性が高いと考えられます。



調査地位置図
(平成 30 年度版 史跡恭仁宮跡より)



調査地の全景(南から)
(京都府教育委員会提供)

【史跡大山崎瓦窯跡】

乙訓郡大山崎町大山崎永福寺

平安時代前期

大山崎町教育委員会調査

大山崎瓦窯跡は、京都府と大阪府の境にある天王山の麓に位置しています。この窯跡では、平安京で使用する瓦を生産していました。

計画的に配置された 12 基の窯が操業されていたことが明らかになり、平安京造営に伴う瓦生産を知る上で重要な遺構として国の史跡に指定されています。

今回の調査では瓦を棄てた土坑が見つかり、窯跡群の北端を確定することができました。

現在、史跡整備が進められています。



調査地の全景(北から)
(大山崎町教育委員会提供)



出土した軒丸瓦と軒平瓦(大山崎町教育委員会提供)

都城の土器・官衙の土器

ながおかきゅうせき

【長岡宮跡第 521 次調査】

向日市鶏冠井町東井戸

長岡京期

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター調査

今回の調査地は、長岡宮の^{だいり}内裏の一つである「東宮」の南西部で、^{つじかいろう}築地回廊や^{がいかくつじ}外郭築地の想定位置にあたります。調査の結果、外郭築地や雨落ち溝などが確認されました。

天皇の居所である内裏を囲う外郭築地の確認により、外郭の規模が明らかになり、内裏の構造がわかりました。その構造は平安宮とも類似しており、平安宮に見られる内裏の構造がすでに長岡宮が造営された頃に形成されていたと考えられます。



長岡宮内裏「東宮」外郭南面築地跡全景（北から）
（公益財団法人向日市埋蔵文化財センター提供）

ながおかきゅうあとうきょう

【長岡京跡右京第 1158 次調査】

長岡京市井ノ内玉ノ上

長岡京期

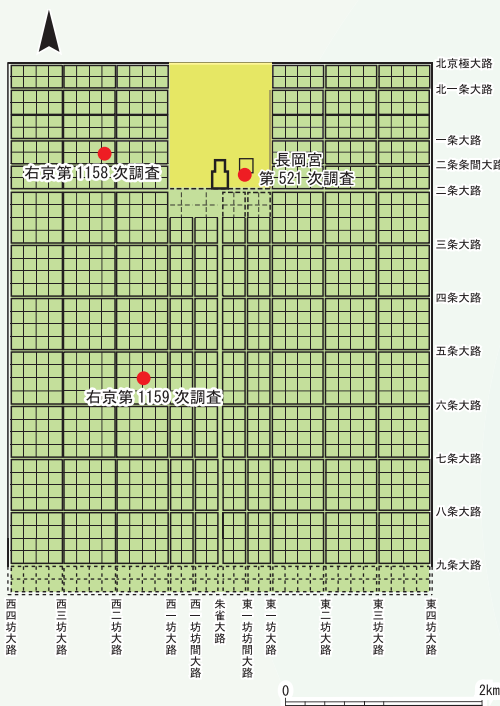
公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター調査

藤原京以後の都城は、^{じょうぼうせい}条坊制と呼ばれる区画割りによって基盤目状に整備されていました。^{すざきおおじ}朱雀大路を中心に^{うきょう}右京、^{さきょう}左京に分かれます。大路で囲まれた大区画を「条」「坊」と呼び、さらにこれを小路で16分割したものを「町」と呼びます。

調査地は、長岡京右京二条三坊二町にあたります。調査では、大型の掘立柱建物や土坑などが見つかりました。隣接地の調査でも大型の掘立柱建物跡が確

認され、1町規模の宅地利用のあり方がわかってきました。

今回見つかった掘立柱建物は、^{けたゆき}桁行7間、^{はりゆき}梁行2間の南北方向の建物で、^{もや}身舎の東側に^{ひさし}廂がつくと考えられます（規模は南北約21m、東西約9.9mです）。また、この建物よりも古い掘立柱建物と推定される柱穴列が見つかり、宅地利用の変遷を考える上で貴重な資料となりました。



調査地位置図



調査で見つかった掘立柱建物（南西から）
（公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター提供）

【長岡京跡右京第 1159 次調査】

長岡京市開田三丁目 長岡京期

公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター調査



東調査区で見つかった遺構（東から）
（公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター提供）

調査地は、長岡京右京六条二坊六・十一町にあたります。調査では、六条条間小路と西二坊坊間小路の交差点や掘立柱建物などが見つかりました。

調査区は2つに分かれ、東調査区で西二坊坊間小路の両側溝と、右京六条二坊六町の宅地に、桁行3間、梁行2間と推定される建物跡が見つかりました。一方、六条条間小路は東西両調査区で南側溝が見つかりました。

西二坊坊間小路西側溝からは「井」と書かれた須恵器杯などが出土しました。

【平安京跡右京三条三坊五町】

京都市中京区西ノ京桑原町

平安時代前期

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

今回は、平安京右京三条三坊五町の北西部約1/4を対象に調査が実施されました。調査の結果、平安時代前期の掘立柱建物や溝、土坑などのほか、姉小路の路面も見つかりました。周辺の調査でも、掘立柱建物などが見つかり、1町規模の宅地があったと考えられています。

掘立柱建物のうち、宅地の中心建物と考えられる建物1は建て替えが行われています。新しい方（建物1新、写真赤色）は、桁行7間、梁行2間の東西方向の建物（東西21m、南北9m）で、身舎の南側に廂がつきます。建物1新は、平安京域では最大級の建物です。

建物1の東側では多数の灰釉陶器・緑釉陶器・土師器・須恵器の食器類などが出土しました。また、「政所」「屋」などの文字を墨書した土器も出土しています。

調査地の北辺で見つかった姉小路は、後世の溝によって大きく削平されていますが、路面の一部と北側溝を確認しました。また、邸宅の北限を画する築地も確認されました。



調査地（南半）全景（東から）
（公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供）

安国寺遺跡は、宮津湾に面した沿岸部の扇状地上に立地します。安国寺遺跡周辺には、史跡^{たんこくぶんじあと}丹後国分寺跡や丹後国一宮である籠神社^{このじんじゃ}、あるいは中野遺跡や難波野遺跡などが分布し、古代丹後国の中心地と考えられます。

6か所の調査区のうち、11トレンチで見つかった柱穴2基は、以前の調査で見つかった柱穴と合わせて、掘立柱建物^{ほったてばしらたもの}の一部である可能性があります。また、12トレンチで見つかった土坑からは「國」と墨書された土師器^{はじき}が出土しました。

古代丹後国の「国府」の解明に大きな手がかりを得ることができました。



安国寺遺跡周辺の遺跡と地割（宮津市教育委員会提供）



天橋立を望む調査地（西から）



墨書土器が出土した様子
（宮津市教育委員会提供）

近世の木簡

ふしみじょうあと 【伏見城跡】

京都市伏見区村上町 江戸時代

当調査研究センター調査

伏見城跡は、城下町を含めた広範囲な遺跡で、元和9（1623）年の廃城以後も、城下町は港湾都市として存続しました。西国大名たちの屋敷があり、国元と京都・江戸との連絡の中継地として利用されました。

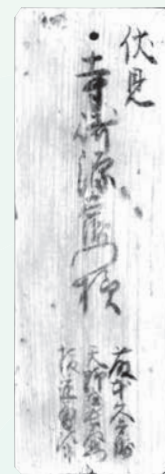
調査では、木簡や漆器碗、近世陶磁器などが出土しました。

北辺の溝から出土した木簡には、人名が記されていました。下段の3名は備前岡山藩の出入商人であり、寺崎源右衛門は、溝の出土遺物と時期が一致する宝暦9（1759）年～寛政5（1793）年に伏見在番として勤務していた武士であったようです。こうした木簡から京都の品々が、伏見を通して国元に送られていたことがわかります。



百四十番
別

羽原文内



伏見
寺崎源右衛門様

藤本久兵衛
天野屋長左衛門
榎並助之丞

出土した荷札木簡

暫定登録文化財とは

京都府では、近年、各地で地震・水害・火災などの災害が頻発し、貴重な文化財の破損・劣化・散逸の危険性が高まっていることから、貴重な文化財の早期保護を図るため、平成29年度に全国初となる「暫定登録文化財」の制度を創設し、文化財保護のすそ野を広げるとともに、修復・保存・防災等のための助成を行っています。

新たに設けられた「府暫定登録文化財」は、将来、国指定や府指定・登録文化財になる可能性のあるものも含まれています。平成

29年度は1,016件を登録し、このうち考古資料は108件です。

今回の企画展示では、「暫定登録文化財（考古資料）」に登録されたものの中から「いにしへの技とデザイン」というテーマで選んだ出土品を展示しています。

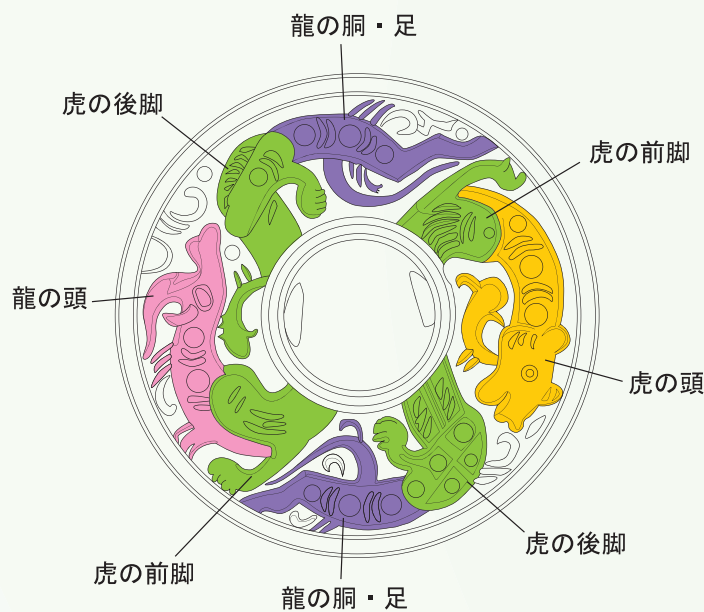
この展示では、石製品や金属製品、各種の器にみる製作技法や技術の交流、デザインなどに焦点をあてていますので、「暫定登録文化財」の「技」と「デザイン」に注目してください。

鏡の文様

古墳時代の鏡は銅と錫の合金（青銅）でできていますが、磨けば白銀色に光り、鏡面上に姿を映すことができます。展示では、鏡の背面の文様を見せています。

中国製と考えられるヌクモ2号墳（福知山市）の鏡では、鏡の文様として、想像上の動物である龍とアジア最強の動物である虎を表現しています。

しかし、日本製の鏡では、虎を見たことがなく、龍に対する知識も乏しいので、鏡の龍や虎の形をまねて描くと、写実性が失われ、もとの動物が何であったのかわからなくなってしまっています。



龍虎鏡のデザイン（ヌクモ2号墳出土）

へんけいししゅきょう
【変形四首鏡】

かわらだに
瓦谷1号墳第2主体部出土
(木津川市) 古墳時代前期



変形四首鏡（直径 11.8cm）

ろくじゅうけいきょう
【六獣形鏡】

うちだやま
内田山B1号墳出土（木津川市）
古墳時代中期

一辺約 18m の方墳から出土しました。
鏡背の文様には、6 体の獣形が配置されま
す。身体は獣、頭は鳥のような頭部と嘴状
の表現に細長い頸が表現されます。獣形が
退化した文様となっています。国産の鏡と
考えられます。



六獣形鏡（直径 13.9cm）

りゅうこきょう
【龍虎鏡】

ヌクモ2号墳出土（福知山市）
古墳時代中期



龍虎鏡（直径 11.5cm）

丘陵頂部に築造された一辺約 8m の方墳
から出土しました。鑄上がり、銅質とも良好
な鏡で、鏡背の文様は、半肉彫の龍と虎一対
が中央の紐を通す鈕を中心に旋回し、ともに
身返る珍しい構図でデザインしています。ま
た、龍と虎には鱗がみられ、両者とも鈕の下
を胴体がくぐるモチーフとして表現されま
す。三国時代に中国で製作され輸入された
舶載品と推定されます。

石の技

叩けば鋭く割れる石。この特徴を生かして人々は生活のために必要な道具を作っていました。しかし、金属という石以上にいろいろな用途に使える素材が登場すると、石はだんだんと使われなくなりました。

宝石とされる石も、磨かなければただの石でしかありません。石の持つ魅力を最大限に引き出すために、石を叩き、割って形を整え、磨く技術が長い時間をかけて培われました。玉作りの一連の作業を示す資料も存在します。

市田斉当坊遺跡（久御山町）では、勾玉や管玉といったアクセサリーや、青銅製の剣を模倣した石剣が数多く見つかりました。いずれも非常に美しく精巧に作られています。往時の工人の技を示す逸品です。

【玉作り関連遺物】

市田斉当坊遺跡出土（久御山町）
弥生時代中期

玉作りの工程で、最も難しい技術は、玉に穴を開ける技です。直径1mmほどの極細の石針を回転させて、穴を開けました。

【石剣】

市田斉当坊遺跡出土（久御山町）
弥生時代中期

柄の形に特徴があり、銅の剣や鉄の剣を模したことがわかります。素材には粘板岩やサヌカイトがあります。



玉作りの道具と管玉（中央上、玉砥石幅10cm）

石を加工する

勾玉や管玉、石剣の素材となる石は非常に硬く、狙った形に作り出すには高い技術が必要になります。その技術は、大きく3つに分かれます。

①大きな石の塊から小さな破片を得るための打撃、②細かな形を作り出すための押し剥がし、③最終的な形を整えるための研摩があります。

これらの技術をうまく組み合わせ、思ったとおりの形へと整えられました。



さまざまな石剣（中央下、鉄剣を模した石剣 長さ16.8cm）

木の技

木製品の製作は、樹木の「伐採」に始まり、製品に応じた「木取り」から「仕上げ」を行います。当初、加工には石器が使われましたが、弥生時代中期からは大陸から伝わった鉄器が用いられます。工具が石器から鉄器に変化したことで、伐採や加工が容易になり、より高度で精巧な製品が作られました。

古殿遺跡（京丹後市峰山町）の井戸杵には桶形容器が転用されていました。杵の内面には仕上げに用いた鉄製の鉋の加工痕跡が残っています。井戸杵に転用する時には補修を行っており、容器本体の底部に柄を作り出して別材で固定します。また、桜の樹皮を穴に通した後に木栓をはめ込んで固定しています。このように、古殿遺跡出土の木製品から古代人の高度な木工技術を知ることができます。

【案】 古殿遺跡出土（京丹後市） 古墳時代前期

護岸された流路から出土した木製の案（机）です。スギ材を組み合わせて作られたものです。天板の周縁は美しくのびかなラインで反らせ、脚は上部を天板に柄穴を作り出して精巧に組み合わせられ、高い木工技術とデザイン性が見られます。



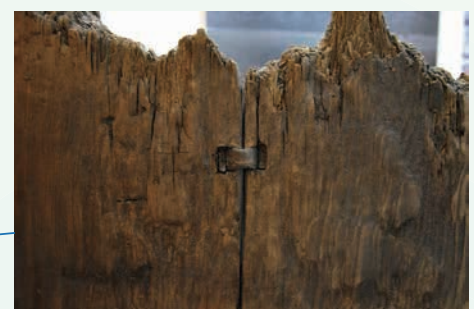
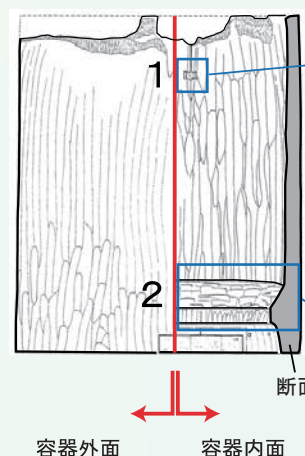
案（高さ 31.5cm）

【木製桶形容器】

古殿遺跡出土（京丹後市）
古墳時代前期

井戸杵として転用された状態で見つかりました。桶は、体部と底板が別作りの構造のもので、底板は廃棄されたようです。スギの大木の心材を削り抜いて筒部とした優品です。桶形の組み合わせ技法は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての日本海側に特徴的なもので、北陸地方との技術交流がうかがわれます。

〔横から見た図〕



1. 桜樹皮による補修（内面）



2. 手斧と鉋による加工痕（内面）

桶形容器（高さ 74cm）

鉄の技

4世紀から5世紀の朝鮮半島での戦いの中で、騎馬を用いた戦に対抗するためにも、倭人たちは常に最新の技術を取り入れ、自らの武器や武具を改良、発達させてきました。

初期の甲冑は、多くの鉄板を革で丁寧^{きばい}に綴^いじ合わせていました。鉄の加工技術の進歩とともに、甲冑の大量生産が必要になると、甲冑は定型化され、使われる鉄板の数が減り、鉄の鋳^とで留めるようになります。

このような最先端の技術を中央政權が掌握^{しょうあく}し、配布することによってその権威^{けんい}を示す役割も持っていました。

【革綴冑・革綴短甲】

かわらだに
瓦谷1号墳（木津川市） 古墳時代前期

ぜんぽうこうえんふん
前方後円墳（全長 51 m）から出土しました。

日本列島の武具が、朝鮮半島からの影響を受け、木製や皮製の短甲から鉄製の短甲主体となる時期のものです。方形の鉄の板に小さな穴を開け、革紐^{かわひも}で綴^とじ合わせて製作しています。当時の有力者の武装を復元する上で大変貴重な資料です。

復元してみました



こざねかわとじかぶと 小札革綴冑（高さ 14cm）
ほうけいばんかわとじたんこう 方形板革綴短甲（高さ 32cm）



よこはぎいたびょうどめしょうかくつきかぶと
横矧板鋳留衝角付冑（高さ 13cm）

【衝角付冑】

あおづかこふん
青塚古墳（城陽市）

古墳時代中期

くつかわこふんぐん
久津川古墳群を構成する方墳から出土しました。鉄の部材を革紐で綴じ合わせる革綴^{かわとじ}技法から鋳留技法^{びょうどうめぎほう}に変わった製品で、鉄製の長方形の板（横矧板^{よこはぎいた}）を鋳で留める当時の最先端の技法で作られています。冑の正面には、衝角^{しょうかく}と呼ばれる三角形の突き出た部分を持っています。

不思議な形

発掘調査をしていると、不思議な形をした遺物に出会うことがあります。発掘調査の担当者たちは、当時の人々が何の目的で作ったのか、どのように使われていたのかを考えます。これらの出土品には、デザインの背景に、異国の文化が垣間見えます。

【須恵器皮袋形提瓶】

谷垣3号墳出土（京丹後市）
古墳時代後期

古墳に埋葬された木棺の上から出土しました。提瓶とは、壺に把手を付けて水筒のように使用されていたと考えられる土器です。展示品は、騎馬民族が使うような液体を入れる皮製の袋を須恵器という土器で模倣したものです。革の縫い合わせ目まで表現しています。



皮袋形提瓶（高さ 14.5cm）

【灰釉羊硯】

樋ノ口遺跡出土（木津川市）
奈良時代

見つかったのは頭部のみで全体の形状は不明です。しかし、平城京跡（奈良県）や斎宮跡（三重県）でも、羊の頭部を付けた硯が出土しています。展示品はそれらを参考にして復元しました。当時、日本にはまだ羊がいなかったと考えられています。人々はこの動物ことをどのようにして知ったのでしょうか。



灰釉羊硯（復元高約 25cm）

【緑釉唾壺】

長岡宮跡出土（向日市）
平安時代前期

出土状況から木箱に入れられていた可能性があります。薄緑の緑釉と呼ばれる釉薬をかけた壺です。中国では、文字どおり唾や痰を吐く壺として使用されましたが、気候の違う日本では、平安時代中期以降、部屋を飾るための調度品として使用されました。



緑釉唾壺（高さ 8.3cm）

器の彩り

三彩は2種類以上の釉薬をひとつの器に掛け分けた陶器です。中国の唐（7～9世紀）では白・緑・黄（褐）・藍の3～4色に彩られた「唐三彩」と呼ばれる器が焼かれます。そして、奈良時代（8世紀）の日本でも唐三彩を手本として、白・緑・黄（褐）の3色に彩られた「奈良三彩」が作られました。

奈良三彩以降、日本では三彩の生産は衰退しますが、16世紀になると再び中国から三彩がもたらされました。この三彩は中国の南部で焼かれたもので「華南三彩」と呼ばれます。白地に緑色・黄色の釉薬を使った三色の器は、いつの時代も日本人を魅了するもののようです。

【三彩小壺】

樋ノ口遺跡出土（木津川市）
奈良時代

この三彩小壺は、小品ですが、深い緑色を基本として規則的に配された白色と褐色のコントラストが美しい器です。工人の美意識を感じさせる逸品です。出土した遺構から奈良時代の有力者の持ち物と考えられています。



三彩小壺（高さ5cm）

【華南三彩盤】

平安京跡出土（京都市）
江戸時代前期

華南三彩盤は、中国で作られた緑色・黄色・茶色・紫色の釉薬を掛け分けた色鮮やかな器です。口縁に切り込みを入れて花卉を表現した輪花という形になっており、中央には草花が線刻されています。華南三彩は日本では「交趾焼」と呼ばれ、黄瀬戸や楽焼のモデルになりました。



華南三彩盤（直径30cm）

【青花大皿】

平安京跡出土（京都市）
江戸時代前期

「華南三彩」と同じころ、中国からは青色の釉薬で絵付けした磁器「青花」ももたらされます。描かれた文様は、動物や草花、山水など様々です。平安京跡の江戸時代の邸宅跡から出土した青花大皿は、中央に鶴が空を舞う様子が描かれています。この青色の美しい磁器は、日本の伊万里焼をはじめ、世界各地の陶磁器に大きな影響を与えました。



青花大皿（直径36.4cm）

展示遺跡・遺物関係年表

西 暦	時 代	展 示 遺 跡・遺 物	できごと	年 代	古 墳 時 代	展 示 遺 跡・遺 物	できごと
1900	近 代			600	後 期	北大塚古墳群 （井手町）	
				500		谷垣3号墳 （京丹後市）	横穴式石室の普及
1800	江戸時代	伏見城跡出土品 （京都市）	1867年 大政奉還		中期	カシヅケ古墳 （南丹市）	
1700		寺町旧域出土品 （京都市）				青塚古墳（城陽市）	
1600	安土桃山時代	平安京跡出土品 （京都市）	1603年 徳川家康 征夷大將軍となる			二子山古墳（宇治市）	
1500	戦国時代		1582年 本能寺の変	400		史跡久津川車塚古墳 （城陽市）	
1400	室町時代		1467年 応仁・ 文明の乱			内田山B1号墳 （木津川市）	
1300	南北朝時代					ヌクモ2号墳 （福知山市）	
1200	鎌倉時代				前期	芝山古墳群（城陽市）	
						史跡銚子山古墳 （京丹後市）	
1100						瓦谷1号墳 （木津川市）	
1000						丹波丸山古墳群 （京丹後市）	巨大古墳が造られる
900	平安時代	安国寺遺跡（宮津市）	1185年 源頼朝 諸国に守護・ 地頭をおく	300		古殿遺跡（京丹後市）	239年 卑弥呼、 魏に朝貢
		平安京跡 右京三条三坊五町 （京都市）	1086年 白河上皇 院政をひく	200		史跡小樋尻遺跡（城陽市）	
800		史跡大山崎瓦窯跡 （大山崎町）	1016年 藤原道長 摂政となる	100	後 期	女布遺跡（京丹後市）	57年 倭奴国王、 後漢に遣使、 金印を受ける
				A.D.1	中期	美濃山遺跡（八幡市）	
					前期		
	長岡京期	長岡京跡右京 第1158・1159次 （長岡京市）	794年 平安京遷都	B.C.400	晩 期	市田斉当坊遺跡 （久御山町）	大規模なムラの誕生 稲作が定着
		長岡宮跡（向日市）	784年 長岡京遷都	B.C.1000	後 期		
					中期	下水主遺跡（城陽市）	
	奈良時代	史跡恭仁宮跡 （木津川市）	745年 平城京遷都 740年 恭仁京遷都	B.C.3000	前期	水主神社東遺跡 （城陽市）	
		三日市遺跡（亀岡市）		B.C.5000	早 期		列島の温暖化が進む
		樋ノ口遺跡 （木津川市）			草創期		土器の出現
		佐伯遺跡（亀岡市）	710年 平城京遷都	B.C.11000	旧石器時代		
700	飛鳥時代	綾中廃寺（綾部市）	645年 乙巳の変 （大化の改新）	B.C.30000	後 期 （中期）		列島が寒冷気候に おおわれる

展 示 遺 跡 位 置 図



「発掘された京都の歴史 2018 いにしえの技とデザイン」 展示図録

発行日 平成 30 年 8 月 4 日



編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3

TEL.075-933-3887

ホームページアドレス <http://kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 河北印刷株式会社